

第1回秋田市河辺地域公共交通研究会議事録

開催の日時 平成20年6月5日(木)午後2時から3時40分まで

開催の場所 河辺地域活動センター

委員の定数 18名(現行委員数16名)

出席委員 13名

議 題 (1) 秋田市河辺地域公共交通研究会について
(2) 秋田市のバス交通の現状について
(3) 秋田市郊外部における不採算バス路線での取組みについて
(4) 秋田市における公共交通の活性化・再生に向けた取組みについて
(5) 岩見三内線の現状について
(6) 秋田大学と共同で行った河辺地域におけるバス利用実態調査結果について
(7) その他

事 務 局	開会の言葉
次 長	研究会開会にあたっての挨拶
事 務 局	研究会設置規約について説明 各委員紹介 会長の選出 進行について打ち合わせ
会 長	挨拶 会長の職務代理者を指名する。
事 務 局	「秋田市河辺地域公共交通研究会について」の説明 (質疑なし)
事 務 局	「秋田市のバス交通の現状について」「秋田市郊外部における不採算バス路線での取組みについて」を説明
会 長	輸送人員が減少してること、それに反比例して補助金が増加している現状がよくわかった。補助金はどのようにして算定するのか。
事 務 局	営業収入から経常費用を差し引いたもの、いわゆるサヤの部分を県と市で補助している。
会 長	その方法だと、運行事業者にとっては収支のバランスが保たれていることになるんだと理解して良いか。路線廃止につながるのは何故か。
事 務 局	説明が若干不足した。サヤの部分の1/4程度は、運行事業者の負担になるものである。
委 員	この研究会の設置趣旨、いわゆる不採算路線の対策ということについて、岩見ダム線と殿淵線がその対象であると理解していたが、岩見三内線そのものが対象であると理解して良いのか。
事 務 局	そのとおりである。
委 員	会議の進め方について、多くの資料を準備していただいたので、全ての説明を伺ってから質疑を行うようにしてほしい。
事 務 局	「秋田市における公共交通の活性化・再生に向けた取組みについて」「岩見三内線の現状について」「秋田大学と共同で行った雄和地域におけるバス利用実態調査結果について」について説明

委 員	現状はよく理解できる。交通局も、赤字のため順次路線を移管し、最終的には廃止となった経緯がある。率直に聞くが、運行事業者は路線の廃止を考えているのか。あるいは、このままの状態が続いた場合に、いつ頃を目処に廃止に踏み切る考えているのか。事務局が承知している範囲で、お答えできる範囲でお聞かせ願いたい。
委 員	岩見三内線の現状は、事務局から説明があったとおりである。厳しい状況であることは確かであり、補助金をいただいているが、先ほどの説明のとおり赤字が大きくなれば、会社の負担も大きくなる。このような状況の中で、県では平成22年度からの補助金削減の方針を打ち出している。これは企業として大きな問題である。路線廃止には届出や手続きなどで1年くらい前から準備をしなければならない。市への正式な申し入れはしていないが、できれば平成22年の3月までには、南部地域・東部地域の8路線について、一定の結論を見出したいと考えている。当然、市や住民に対し、一方的に廃止というようなことはしない。
委 員	現状を見る限り、今後に期待はできないが、需要が全くなくなるものでもない。事業者は、採算がとれないから廃止となるが、その1/4の部分が企業の努力でやっていく分なのではないか。乗車人員が少ないから路線廃止というのは避けたい。人が暮らしていくために必要なものの一つであり、補助制度を維持しながら路線の確保に努めてほしい。
委 員	行政として、まずは存続させるための手だてを考えてほしい。岩見三内地区にはスクールバスが運行している。さらに、親御さんの送迎も多い。以前から考えていたことであるが、路線バスの利用促進のため、このスクールバスを廃止し、バス券などで児童生徒の路線バスへの乗車促進を図るのも一考ではないか。いろんな角度から研究してほしい。
委 員	バスを利用しているが、平均乗車密度5人を目安に、バスに乗りながら乗降客の動きに目を配っている。ずっと守ってきた岩見三内線であり、今後も何らかの方法で住民の足を守っていききたい。路線を守ることができるなら、運賃を値上げしても構わないと思うところもある。補助金の削減を理由に路線廃止は避けたいし、しないでほしい。行政としても住民の足を守る必要があるのでは。
会 長	今後のスケジュールはどうなるのか。
事 務 局	20年度中に方針を決めたいと考えている。代替交通の運行には時間も必要であり、来年2月か3月には方針を決定したい。
委 員	バスの便数を減らしたり、小さい車両を利用するなどはないのか。事業者が対応できない部分があるのか。
委 員	利用者の絶対数が減少してきていることもあり、小さな車両の補助制度が充実してきている。代替交通の導入には、どのような形態になるかもあり、車両ごと、便数のこと等一概に言えない部分がある。
委 員	何らかの方法で路線を維持するにしても、あるいは、代替交通を導入するにしても、ここにいる委員が納得できるものが必要である。国や県の動向、市の考え方などつまびらかに提示してほしい。希望を持つにしても、諦めるにしても気持ちの切り換えになる。お願いをしたい。
会 長	その他事務局から何かないか。
事 務 局	先ほども話したが、次回は7月か8月に開催し、2月か3月には方針を決定したいと考えている。

- 議事終了 -